

Dappe

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

2

2021

はじめての 草刈り奮闘記



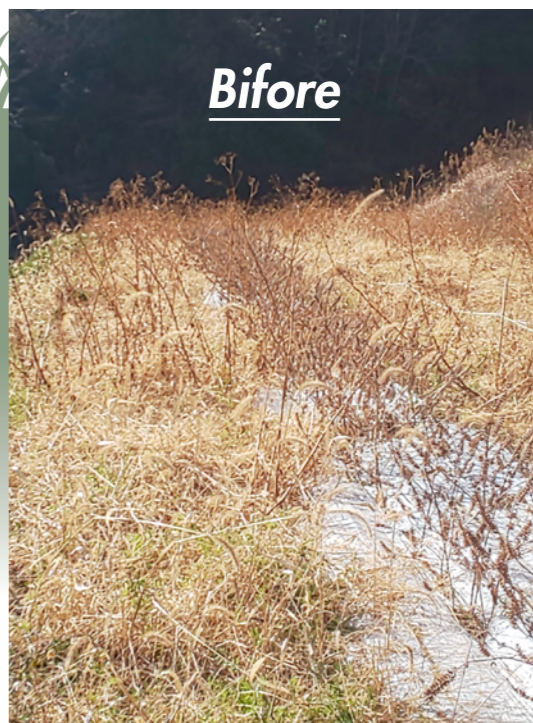
こんにちは！農業支援担当の堀越です。先月に活動をスタートしてから色々なことを学び、日々成長出来ている気がします。

まずは、触ったこともない草刈機について勉強することから始めました。稲毛まで道に迷いながら車を走らせ、草刈機の安全講習会に参加したのですが・・・他の参加者の方たちは、造園業とか工事現場で機械に触れることが多いようで余裕の表情。私はというと、リコイルスターターというヒモを引っ張ってエンジンをかける仕組みも分からず、講師の方に苦笑いされながらやっと合格になったのでした…。

鋸南に戻った翌日からは、早速草刈りを始めています！まだまだ荒いままばらな刈り方で、所々虎刈りになっているんですけど。でも、頑固な雑草がなぎ倒されていく様子はちよつと快感ですよね！私はハマってしまったのが、何故かお休みの日も草刈りしに行きたい気持ちになります。



After



Bifore

余談なんですけど、草刈機って結構重いですね。慣れなくて下手に大きく振ってしまった私は、毎日笑ってしまいうくらいの筋肉痛です。ひよつとしたら、これはダイエットになるのでは!?とちよつと期待しちゃいます。

菜花などの鋸南町の主要な農産物の摘み取り体験や、ケールの仲間のプチヴェール等の珍しい野菜も教えてもらって、少しずつ野菜のことに詳しくなってきました。草刈りにいけない雨の日は、役場で農業の本を読んだりネットショップについて勉強したりと、まさに晴耕雨読って感じですよ。早く自分でも美味しい野菜が作りたいなーと、期待に胸を膨らませている毎日。町の農家の皆様、これからもぜひ宜しくお願いしますね！

Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI (地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田 66-1
執筆 清水多佳子 堀越美奈 室井翼

鹿肉ジャーキーが できるまで

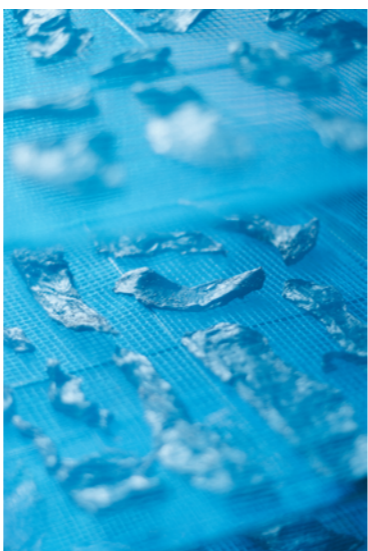
朝起きて、スマホを見ると「おはよう。早速ですが、鹿食べませんか？」のメッセージ。添付されていたのは吊るされた鹿の写真。田舎暮らしの醍醐味を味わうため、服を着替え、知り合いの元へ向かった。



① 血抜きや、内臓が処理された半身に、ナイフを入れて肉のブロックを切り出す。ジャーキーには脂の少ない部位が向いているそう。



② 更に細かくした肉を、赤ワイン、醤油、塩、みりん、生姜、唐辛子のタレに漬け、冷蔵庫で一晩寝かせる。
③ 寝かせた肉を、キッチンペーパーで水気を拭き取り、魚を干すネットに入れ、10日間ほど通気の良い日陰で干す。



④ 干して乾燥した肉を燻製器に入れ、120℃前後で40分ほど燻す。燻製器は知人の手作りのモノを借りた。



⑤ 完成。野生の肉なので念入りに燻したら少し硬くなってしまったが、お酒のつまみにピッタリのジャーキーが完成した。

こんな時だからこそ アウトドア

緊急事態宣言下で遠出もできないし、することがないと思っているあなた。こんな時こそ、アウトドアをはじめてみませんか？家のお庭でも、近くの海や山でも、外でのんびりするとは心を開放してくれます。のんびりする合間にテントを立てたり、ごはんを作ったり、楽しみ方は尽きません。自然豊かな町に住む、特権です。

【 味噌漬け 】

ジャーキー用の肉と同様に、細かくした肉を、味噌とごま油、カツオだし、砂糖、七味唐辛子を混ぜ合わせたタレに漬け、一日寝かす。フライパンでしっかり火を通し、ごまを振って完成。



ついでの
もう一品

地域のお店と、継業の可能性



地域おこし協力隊の清水です。町の中で、お店の取材をしていると、ときどきこんな話を聞くことがあります。「もう年をとってしまったって、跡を継いでくれる人いないので、そのうち店をたたむと思う」という声です。店をやめてしまうなんてもったいない...と思いつつ、解決できる手段はないのだろうかと考えてしまいます。

観光客は何もない場所には来ません。どんなに鋸南町に来たいと思っても、立ち寄るお店がなければ、別の場所に行ってしまう。地方の仕事に興味のある人を都心から呼びこみ、「継業」をしてもらう仕組みがあればいいのになあと思います。

実際、岐阜県は「継業」をしようという声、身内ではない、意欲のある第三者に事業を継いでもらう施策に取り組んでいます。もちろん、「継業」のシステムを作ることは簡単なことではないでしょう。「よほど信用のできる人でなければ、継いでほしくない」という受け入れる側の気持ちの問題もあると思うのです。また、東京から来た人も「思っていた仕事とイメージが違った」と感じるミスマッチが起きるかもしれない。ただ、地方から仕事がないものなのかと感じます。

高齢化の進む「地方の問題」を、どのように解決していけばいいのか。取材をしていると、様々なことを考えさせられます。